

草の根技術協力（草の根パートナー型）事業概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	キルギス共和国
2. 事業名	キルギス共和国国立農業大学における土壌・作物分析技術人材育成プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	<p>キルギス共和国（以下、キルギス）では、ソ連邦崩壊後約 30 年が経過し、農地の肥沃度は著しく低下し、収量も低下している。農作物の種類によるが数十%という単位で収量が減少している。その上経済的な問題等も要因となり、化学肥料の投入も見込めない状況にある。これを受けて家畜糞尿の活用が注目され、応募団体も 2007 年より JICA の技術協力プロジェクト、および草の根技術協力事業にて、有機農業の普及のための活動を実施してきた。活動中の調査でも有機農業に対する意欲が農家、行政、国民と全体的に高まり、国もこれを推進するために、「有機農業推進法」を策定し、2019 年 11 月 18 日に施行された。</p> <p>しかし、この法を施行する上で重要な基礎技術である土壌・作物分析技術の確立が遅れている。また、キルギスには分析に基づいた科学的な有機農業技術が確立されておらず、今後の有機農産物生産において適切な生産方法の普及が求められる。</p> <p>本提案事業では、この国で唯一の農業大学で、有機農業のカリキュラムを設けているキルギス国立農業大学において分析技術を確立し、土壌、作物の分析結果に基づいた有機農産物の生産方法等に関するマニュアルを作成する。また、この技術を全国に普及する指導者を育成する。</p>
4. プロジェクト目標	キルギス国立農業大学（以下、KNAU）が土壌・作物の分析結果に基づき、キルギスに適した有機農業を確立し、その指導者が育成される。
5. 対象地域	ビシュケク市、チュイ州、ナリン州、イシククリ州、タラス州
6. 対象地域を管轄する在外公館（大使館、領事館、領事事務所）	在キルギス日本国大使館
7. 受益者層 (ターゲットグループ)	<p>【直接受益者】キルギス国立農業大学（KNAU）分析センター（教員 4 名、学生 20 名）および相談室 10 名、農業省有機推進部門指導員 20 名、職業訓練校教員 40 名</p> <p>【間接受益者】キルギス国内の行政関係者、農家約 1,400 名（各指導者 20 名ずつ指導を想定）</p>
8. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <p>1) KNAU の分析センターが土壌・作物測定機器の使用及び測定結果分析の技術を習得する。</p> <p>2) キルギス有機農業最適技術を確立される。</p> <p>3) 確立されたキルギス有機農業最適技術を指導するため、教材が作成され、人材が育成される。</p>
9. 実施期間	(西暦) 2022 年 2 月～2025 年 7 月 (3 年 6 月)
10. 事業費概算額	73,370 千円
11. 実施体制	現地カウンターパートとなる KNAU（分析センター・農家相談室）を核とし、農業省有機農業推進部や対象地域の職業訓練校と連携し、事業を実施する。
1. 団体名	バイオマスリサーチ株式会社
2. 活動内容	家畜糞尿や木質などのバイオマスを活用するためのプラットフォームとして、地域振興を目指すコンサルタント会社。キルギス共和国においては、2007 年より現在まで JICA 技術協力事業および草の根技術協力事業（草の根パートナー型）を実施している。